



大雪対応は万全か

廣本 昌久 議員

市内で雪崩により、21世帯が一時孤立する事態となり、災害派遣を自衛隊に要請しました。市は大雪警戒本部を設置しましたが、「市民の安心・安全」を確保するため、どのように対応されたのか伺います。

防災監

高齢者に対しては雪下ろし支援金の給付や、保健師による訪問を行い状況確認を行いました。また公共交通機関の乱れ等の情報提供は、防災行政無線で臨時放送をし、伝達に努めました。今回は自衛隊等関係者の尽力により、雪への対処は概ね適切に行われたものと思えます。

「ごみ減量大作戦」の経緯と成果は

市は積極的に環境学習会等に取り組み、



ゴミ減量をアピールする収集車

市民のごみ問題意識が随分変わってきたように思われます。事業開始から約1年経過し、削減目標に対する達成見込みが50.4%となつていますが、その原因と問題点並びに今後の見通しを伺います。

市民環境部長

ごみ減量意識を周知徹底しきれなかったこと

や、取り組みへの温度差など反省事項もあります。今後は、今日までの取り組みに創意工夫を加え、粘り強く啓発に努め、真剣な取り組みに努めます。

熱心な集落等へのインセンティブ(目標を達成するための刺激)が必要だと考えますが如何ですか。

各集落のやる気を醸成するための取り組みにつきましては、今後十分検討していきたいと思

担当部門の取り組みだけではなく、教育現場との連携による啓発運動を展開するべきと考えますが、教育委員会の考え方はいかがですか。

市民環境部と連携しながら、地域に対する啓発をしていきます。

びわ湖源流の郷たかしま戦略に期待すること



秋永 安次 議員

「びわ湖源流の郷たかしま」は、市長の政策のキーワードとして位置付けられています。

市民環境部長

私は、今回打ち出された戦略は、高島市が「びわ湖源流の郷たかしま」として、各種施策を推進するにあたっての方向性を示すものであると認識しています。この戦略をただ単に行政の施策推進のためだけでなく、市民とともに高島市を元気にするための戦略として、広く市民に啓発・普及に努め、みんなで高島市を元気にしていこうとする意識の醸成が大切であると考えます。

この戦略を推進するにあたり、県内一の広大な市域を3つのエリア「里山・里住・里湖」と名付け、当市の独自性を発揮しながら、単に生物多様性を保全するだけでなく、近畿の水瓶である「びわ湖源流の郷たかしま」としての誇りを感じながら、「水を養い・水と暮らし・水でつながる高島」をコンセプト(概

そのためには、この戦略の目指すもの、そして、戦略を推進するにあたり、今後、広く市民に周知啓発を図り、行政と市民との協働による展開



「里山・里住・里湖」のイメージ図

念)に、高島市が元気になり、市民が安心して生活できる「暮らし」や「産業」を、また市民だけでなく都市住民を中心とした多くの人が訪れ楽しむ「連携・交流」の3つの視点を重視した取り組みを進めることとしていま

この戦略が目指す目標像について、広く市民に周知し参画を頂く中で、みんなで高島市を元気にしていこうとする協働の意識の醸成に努めていきたいと考えます。

高齢者や障がい者など要援護者を災害からどう守るか



福井 節子 議員

東日本大震災を目のあたりにした市民は、地震と原発事故を他人事ではないと感じています。特に要援護者は、被災にどう対応できるか心配しています。

要援護者の把握は積極的に進め、介護認定者にも説明を、障がい者にも同意を求めて行くべきでは。

健康福祉部長

介護認定の説明時には、多くの調査項目があり、本人の負担を考え、書面でのお知らせをしています。障がい者への説明も含めて、今後の対応について協議していきま

要援護者の実態に見合った避難計画が必要では。



福祉避難所となる陽光の里

きます。

福祉避難所の役割、拠点づくり、ネットワークづくりで緊急時の適切な対応が出来るマニュアルづくりを早急に。

健康福祉部長

東日本大震災の教訓をもとに、避難時における要支援マニュアルを作成することが重要と考えており、今後、福祉施設・

事業所・自治会など関係機関による研修・検討を進めます。

重要な役割を果たす、見守り活動を進めるために、社協に支援をすべきでは。

見守り活動は地域のつながりが一番大切な部分であり、市内には素晴らしい取り組みをされている地域があります。その活動を基に、社協、また各種団体や地域の方々との連携を上手くできる

原発事故時の避難計画でも、健常者優先にならないよう同時進行で。

防災監

要援護者の避難についても、健常者の避難と同時に進めるよう、福祉部門と連携を取りながら検討してまいります。

その他の質問

地域活性化と、市民の暮らしを守る支援策を